

# 令和 7 年度 園評価書

園番号 51

園名 静岡市立和田島こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「心豊かでたくましい両河内の子」	やってみたい やってみよう ～友達と つながろう～	自ら進んで身近な人と挨拶をする	○保育教諭が一人一人と挨拶することで、子ども達が挨拶すると互いに嬉しい気持ちであることが感じられるようにした。進んで挨拶をできる子が増えた。	A	A	○散歩で地域に出かけた時や園内においても、自ら挨拶をする姿が多く見られた	○引き続き保育教諭が、子どもが安心できる関係作りを行い、一人一人と挨拶を交わし、子どもが自分から挨拶できるようにする
		自分の好きなことを試したり工夫したりしながら夢中になって遊ぶ	○遊びの中で個々の興味や楽しさに保育教諭が寄り添い、“やりたい”と思えるような発達に合わせた素材や玩具を用意することで子どもが自ら遊び始め、イメージを膨らませて遊ぶようになった	A	A	○保育教諭が子どもの好きなこと、得意なことを伸ばす支援をしてきたことで、子どもが自分の好きな遊びを見つけ、繰り返し遊びを楽しむ姿が増える変容となった	○保育教諭が子どもと一緒に遊ぶ中で、その子の好きなことや遊びの中で感じている楽しさや興味を理解し、試す・工夫することができる遊び環境をつくる
		楽しい、おもしろいと感じたことを伝えながら友達と一緒に遊びを進める	○保育教諭は「みて！」という子どもの声を大切にしてくつくり話を聞いて自分が思ったことを伝えられるよう関わった。友達を誘って遊ぶ姿がみられたが、その遊びのおもしろさを広げたり友達に伝えたりすることには難しさがあった	B	A	○子どもの遊びの実態に合わせた導入や環境設定を保育教諭が行うことが、子どもの“やってみよう”とする姿につながっていた	○保育教諭が子どもと一緒に遊びこみながら、子ども同士をつなげる関わりをしていく。子どもの心が動き、考えたり友達と話し合ったりするきっかけが生まれる環境作りを行う

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びや生活を通し異年齢で関わり、思いやりの気持ちを育てる	○職員間で遊びや行事について話し合いを密にもち、連携して異年齢保育を進めたので、子ども同士が自然と一緒に遊ぶようになっていく。乳児や年少児が増えたことで、優しく接したり遊び方を教える姿がみられる	A	A	○異年齢保育の中で、互いに興味をもち、親しみをもって一緒に遊んでいる。年上の子が年下の子をいたわる姿が見られ良い関係が作られている	○遊びの内容や理解に差があり、遊びが途切れてしまうことがあったので各年齢の発達の差を考慮しながら関わる。週案会議を行い職員間で連携しながら教育保育を行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切に、安心して過ごせるようにする	○一人一人と丁寧にコミュニケーションをとりながら心身の体調の変化に気を配るようにした。家庭と子どもの様子を伝え合い、個人差に配慮した関わりを行うことで、子ども達が安心して過ごしている	A	A	○個々の好きなことや得意なことを保育教諭が理解してその子に合わせて具体的に援助していくことで、子どもが伸び伸びと遊んだり、自分の得意なことを表現したりしていた	○家庭との連携を大切にし、その子に合った生活リズムで過ごせるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「もっとやりたい」「友達と一緒に遊びたい」と思える環境作りをする	○子どもの興味に寄り添い子どものつぶやきを捉え、すぐに遊びだせるよう園庭や室内の環境作りを行ったことで、自分の気に入った遊びを継続して楽しむ姿がみられた。友達を真似た遊びも多く“もっとこうしたい”と思える環境が必要である	B	A		○遊びが広がり、翌日につながるよう、保育教諭が一人一人のおもしろさに寄り添いながら、友達の遊びにも気づけるよう関わっていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	交通安全や避難訓練、不審者対応訓練を通して自分の身を守る行動を身につける	○紙芝居を使い、子ども達に分かりやすく話をしたり、様々な想定で訓練を繰り返したりすることで、身につけてきている。避難訓練や不審者対応訓練では真剣に訓練に参加し、自分の身を守るために行うことを理解している	A	A	○少人数だからこそそのメリット・デメリットがあるが、環境作りや子どもへの関わり、集団作りなどにおいてデメリットをどう改善させていったら良いのか、職員皆で連携して取り組んでいたと感じる	○地域と連携し、日頃から危機意識や新しい防災意識を理解して様々な想定のもとで訓練を行う。散歩時には自分から交通ルールに気づけるよう繰り返し声をかけていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが自ら手洗いやうがいをし、健康に過ごせるよう支援している	○保育教諭の手洗いやうがいを示す姿を見せて、子どもが気づいて自分で動けるような言葉がけをすることで、自ら進んで行う子が増えた	A	A	○子どもは大人の行動を真似することを踏まえて、挨拶や手洗い、うがいに加えて、他の子の良さを認めて褒める保育教諭の姿をたくさん見させてあげてほしい	○子どもの様子を最後まで見届け、必要な時に声をかけていく。また、食後に口を拭くことや咳エチケット、鼻を拭く等を自分で気づいて行う機会を作る
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達を職員間で理解、共有をし、支援している	○特別支援に関する研修に多く参加し、学んだことを周知して自園での支援に生かした。毎月の会議で個々の様子や関わり方を職員で共有することで、保育教諭がその子に合わせて具体的に支援することができた	A	A	○園内研修では課題や話し合いの視点を明確にしている。毎回の学びを積み重ねていくことで、園全体として、又個人としての資質の向上に繋がっていた	○一人一人性格やペースに違いがあるため、子どもの姿を職員会議で確認し、必要に応じてケース会議を行い、具体的な支援方法について考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営を進めている	○分掌担当者が役割を果たし、見通しをもって計画や準備を進めることができた。担当が手伝ってほしいことや、迷っていることを他職員に伝えられたこともあり、全職員で協力して行事運営を行うことができた	A	A		○職員数が少なく、分掌業務において個々の負担が多いことを踏まえ、職員間の伝え合いを大切に。協力して業務を分担しながら園運営を進めていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修で、子どもの興味に合った遊び環境や「おもしろい」「たのしい」を友達につなげるための援助を学び合う	○園内研修の事後研で遊び環境や教材の使い方、子どもの姿と保育教諭の関わり方を共有した。学びがその後の遊び環境の作り方や子ども理解につながり、子どもの遊びが充実し、“一緒にやろう”と友達を誘う姿が見られた	A	A	○特別支援教育は今後も欠かせないので、専門性の高い外部の知見を園内で共有するシステムはとても重要だと感じる。全ての職員が当たり前のように特別支援の知識等を身につけていけるよう学ぶ姿勢を大事にしてけると良い	○今後も子どもの興味関心を捉え、「やってみよう」と感じられるよう関わり、環境作りを行う。子どもが遊びを広げたり変化させていけるにはどうしたら良いのか、園内研修で協議していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った遊びや、発達に必要な体験が得られるように環境を用意している	○その時々季節に合った体験ができるよう環境を整えたり、園外保育にでかけたりすることで、この地域ならではの体験を重ね、様々な素材に興味を示して、触れて遊ぶ姿が見られた	A	A	○小中連携が軌道に乗っている。“小1ギャップ”を解消するため、また教員同士の理解とスキル向上のためにも今後も継続していきましょう	○子どもの姿や季節に合わせて、保育教諭が願いをもって環境構成するとともに、職員間で具体的に環境について話し合いを行って教育保育を進める。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	様々な手段で園から情報を発信し、保護者と一緒に子どもの育ちを支えている	○登降園時のお知らせボード(コドモン)やドキュメンテーションで園での活動の様子や子どもの遊びの姿を伝えた。送迎時の会話や面談を通して、子どもの様子や成長を丁寧に伝え、園と家庭とで信頼関係を築いた	A	A		○遊びの中で子どもの成長や日々の様子を伝えられるよう、引き続き掲示物や伝え方を工夫し、家庭と連携して子どもと関わっていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	地区の小中学校と情報交換や交流を深めるとともに課題を共有し連携する	○幼小連絡会で小学校の先生方と話し合うことで、小学校の様子を知り、家庭の状況を共有することができた。また度々小中学校に行き、交流することで、身近に感じて憧れをもち、年長児は進級への期待がより膨らんでいる	A	A	○身近にある壮大な自然の中で、季節の地域行事に参加したり、野菜を収穫したり、地域との触れ合いが存分にみられるので今後も継続して行ってほしい	○引き続き小中学校と連携して、今後も交流を継続して行う。子どもの様子を互いに見合う中で、情報交換や課題の共有をしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園外保育や地域の行事に参加することで地域の人と関わりをもつ	○地域のイベントに参加したり、散歩や畑活動で園外に出掛けたりしながら、様々な体験を地域の協力のもと行うことができた。新しい交流も生まれ、継続できるよう計画していく	A	A		○子ども達がこの地域が大好きで、地域の人たちに感謝の気持ちをもてるよう、保育教諭自身がこの地域についての見聞を広げながら近隣と積極的に交流していく